

基礎情報

No. 206	名称 ちんこんひ どりつじゅうほうへいだいひやくだいたい(たまいちのはちはちぜろよんぶたい)
不明	鎮魂碑 独立重砲兵第百大隊(球一八八〇四部隊)

建立年月日 1993(平成5年)年5月	改修・移設等歴 —
------------------------	--------------

所在地番 糸満市字真壁仲間下原1292	座標 26.10711361	地目 雑種地	地積(m <sup>2</sup> ) 2,255.00
------------------------	-------------------	-----------	---------------------------------

規模(幅M×奥行D×高Hcm) [主碑]全体:200*90*137、碑身:140*30*122
--

素材 【主碑】碑身:黒御影石磨き仕上+背面貼付け[戦没者名記板:鉄板]、台座:鉄筋コンクリート／【香炉】鉄筋コンクリート造
--

建立者 全国重砲友好会独立重砲第百大隊遺族会	管理者 不明
---------------------------	-----------

**碑文等**

<前面>鎮魂碑/独立重砲兵第百大隊/(球一八八〇部隊)/昭和十九年六月中旬マリアナ戦線の変化に伴い、突如陸軍重砲兵学校に八九式十五糎加農砲一個大隊の動員が下令された。教導聯隊は大隊長河村秀人中佐以下三百五十有余名を第三中隊第四中隊を主幹として、富士分教所の教官及び職員を加え横須賀重砲兵聯隊に転属した。当隊は独立重砲兵第百大隊として同年七月二十一日沖縄那覇港に上陸第三十二軍に編入、主力は第五砲兵司令官和田孝助中将の隷下に入り、北中飛行場制圧の任に就き、一部は国頭支隊に配属された。/翌二十年四月一日米軍は古今未曾有の艦砲射撃及び爆撃に援護され上陸を開始した。棚原陣地の当隊は沈着冷静に対処し両飛行場制圧に偉大な戦果を収めた。総攻撃に際しては機動的集中射撃を実施し砲兵の本領を如何なく発揮したが、間断なき砲爆撃により死傷者続出、火砲車輛の損壊も甚だしく司令部命令により、喜屋武陣地に後退真壁附近に集結し、戦闘続行敵の進出阻止に当たった。/六月二十日の最後の軍命令により棧を失せず果敢な斬り込みを決行、全員悠久の大儀に生き靖国の華と散った。本決戦に於ける当隊の戦没者は河村大隊長以下七百三十四名であるが、当隊に配属された防衛隊員学徒隊員はじめ看炊事等に献身的に尽くし、当隊と運命を共にした人や、戦火の犠牲となった多くの住民のいたことを忘れることは出来ない。祖国に今日の平和と繁栄をもたらすため、礎石となられたこれ等の方々の御霊の安らかならんことを祈願し、当隊終焉のこの地に碑を建立する。/平成五年五月/全国重砲会 重砲校友会/独立重砲兵第百大隊遺族会

<後面>独立重砲兵第百大隊 戦没者氏名/[略]

写真

